

## プロジェクトボンドにより 再生可能エネルギー開発資金 69 億円を調達

2018 年 4 月 20 日、リニューアブル・ジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：眞邊 勝仁、以下リニューアブル・ジャパン）は、三重県鳥羽市における太陽光発電事業に関するプロジェクト開発資金のうち 69 億円を、パークレイズ証券株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：木曾 健太郎）がアレンジした再生可能エネルギープロジェクトボンドスキームにより調達致しました。

リニューアブル・ジャパンは、再エネ事業のディベロッパーとして 445 メガワット（2017 年 10 月末現在）の開発案件を有しており、発電所の開発・運営等を行っております。また、インフラファンド等を活用し、再エネ事業と金融を融合したインフラ投資市場の拡大を推進しています。

今回の資金調達は、再エネ事業の拡大を通じて CO2 削減に資するものであり、リニューアブル・ジャパンは「ESG 投資」に関心がある投資家の理解を得ながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

### 本取引の概要

名称	RJ 再生可能エネルギープロジェクトボンド II 受益権
借入金額	6,900,000,000 円
借入日	2018/4/20
最終返済日	2040/2/20
受託者	日立キャピタル信託株式会社

### 対象事業の概要

事業者のスポンサー	リニューアブル・ジャパン株式会社
事業内容	太陽光発電事業の開発、及び完工後の発電事業
所在地	三重県鳥羽市松尾町
事業規模	16.5 MW（モジュール規模）
想定年間 CO2 排出削減量	約 9,788 トン

### リニューアブル・ジャパンについて

リニューアブル・ジャパン（2012 年 1 月に設立、資本金 13 億 7545 万円）は、上場インフラファンドを運営する国内唯一の再生可能エネルギー専門ディベロッパーです。事業用地の確保・発電所の建設・運営管理などを一気通貫で行い、また、高度な金融ノウハウを活かして発電所を金融商品として組成させる力も兼ね備えています。なお、上場インフラファンドは、国際的な ESG 投資の指標である GRESB による評価（アセット評価：3 スター）を得ています。